

健康教育

- ☆ たくましさを育てる天王教育…………… 2
—自分の生活は自分の手で—
- ☆ 健康教育の歩み…………… 5
—「あたま」と「からだ」と「こころ」
の調和を求めて—
- ☆ 健康優良児童中央審査に参加して……………12
日本一になって……………13
- ☆ 「健康優良児日本一」の栄誉に浴して……………14
「美樹さんを受持って」……………16
「健康優良児授賞式」に参加して……………18
「日本一健康優良児」に選ばれて……………18

昭和53年度全日本健康優良児童

朝日新聞社提供



NO 77



愛知県豊川市立天王小学校

教頭 平松 信雄

たくましさを育てる天王教育

—自分の生活は自分の手で—

1.はじめに

体力がない、すぐ骨折する、ねばり強さがいない……など、子どものひ弱さを指摘する声は強い。原因はいろいろあるだろうが、最も見逃してはならないことは、子どもたちを受け身の生活に追いやってしまっていることではないだろうか。

私たちは、こうした反省と本校児童の実態から、心と体の健康こそ求めるべき教育の方向であるという考えのもとに研究を進めてきた。私たちの考える「たくましさ」とは、子どもたちが直面する多くの問題に、自分から積極的に立ち向かう姿勢であり、それを育てる方法として多くの活動を試みてきた。

2.学校の概要

本校は、昭和49年4月、人口増に伴う過大解消のために新設された学校で、学級数16、児童数495名の適正規模校である。

豊川市の南端にあり、豊川右岸の河岸段丘と豊橋平野の境に位置している。南部は水田地帯であり、北部は豊川市街に続いた商店街である。学校は、東名インターチェンジに通じる国道近くにあり、交通の便がよい。公害もほとんど無く、環境には恵まれている。

3.地域社会の協力

新設校には伝統がない。しかし、それをみんなで作っていかうという熱意が地域全体にみなぎっている。「親子体力づくり」「ふれあいの日」「環境づくり」など、学校の教育方針には全面的な協力が得られる。本年度の健康優良学校日本一の栄誉は、こうした地域の協力に支えられて得たものである。

4.教育目標

自主的で創造力豊かな、心身ともに明るい健康な子どもを育成する。

具体目標

- ・たくましい子
- ・助け合う子
- ・よく学ぶ子

5.本年度の重点努力目標

- (1) 生命の尊重を基盤とし、心身ともに健康でたくましく意欲的に行動のできる態度を育てる。(体育時・体育行事の充実、保健意識のこう揚、太陽の時間の充実)
- (2) 連帯意識を高め、責任感と思いやりの心を育てる。(血の通う学級経営、児童会活動、勤労作業の重視)
- (3) 自ら考え、正しく判断できる力を育てる。(朝の自習時間の運用、自分で学ぶ習慣、話し合い活動の重視)

- (4) 教育環境の整備と施設・用具の効果的な利用を図り、その点検と管理につとめる。(備品・施設の充実・整備、校内緑化、点検と管理の徹底)

6. 実践経過

本校が本格的に健康教育に取り組んだのは昭和51年度からである。

初年度は、虫歯の予防とか近視の予防など防衛的な活動が中心となったためか、子どもたちは、常に受動的な活動しかできなかった。

(愛知県準1位受賞)

2年目(昭和52年度)は「自分のからだは自分の手で」を合言葉にして、自分で自分の体を鍛えることに努力させた。その結果子どもたちは、意欲的・積極的に体力づくりに取り組むようになった。そして、さらに家族体力づくりや地域ぐるみの体力づくりへと広がっていった。しかし、これは健康教育の一部に過ぎず、決して満足すべきものではなかった。

(愛知県1位受賞)

本年度は、テーマを「自分の生活は自分の手で」とした。子どもたちの精神的自立を願い、よい習慣を身につけ、自分の生活をよりよい方向に切り開いていこうとする意欲を育成したいと考えた。

(大規模校日本一受賞)

7. 特徴的活動

子どもたちが、意欲的・積極的な姿勢をつくるには、活動そのものが子どもたちに喜びを与え、夢を抱かせるものが望ましい。そのために私たちは、アイデアを凝らした数多くの活動を実施してきた。そして、それをできるだけ子どもの手でゆだねることによって目的を達成しようと考えた。

(1) 生活の向上を図る活動

①学校実習田の経営

最近の子どもたちは、農家の子どもでも農作業を手伝う者は少ない。そこで、地域に根ざした教育として「米づくり」をとりあげた。泥と汗にまみれ、体を通して働くことの尊さを学ばせたいと考えている。

本年で3年目になるが、毎年12月には、「天王まつり」を企画し、全校児童がもちをほうばり、児童会主催の行事に参加する中で収穫の喜びを味わわせ、連帯感を深めるようにしている。



勤労の尊さを体験させる学校実習田

②手づくり教室

高価なラジコンのおもちゃを操ることのできるのが賢いわけではないだろうし、また、それによってさほど創造力が育つとも思われない。

買った風よりも、苦労して作った風をあげることの方がおもしろい。私たちは、自分の力で作り出すことの大切さを体験させ、生活を見直し、物を大切にすることが育てたいと考えて、月平均2時間の手作り教室を実施している。内容は、楽しみながら作り、それを使って遊べるものを考えた。そしてその材料を、地域の実情に合い、地域の人々の応援が得られるものに求めた。老人を招いてのわらざうり作りは「地域の老人に喜びと生きがいを与えている」となかなか好評である。



地域の老人から学ぶ手づくり教室

③生活体験発表

努力した友達の発表を聞き、自己の励みとする。PTAも発表に参加する。

④O / S T K (おーすばらしい天王の子ども)の表彰

善行・努力した者や学級を表彰し奨励する。

⑤愛校安全の日の活動

手作り弁当の日、学校のために善行をする。

⑥生活目標の提示

校舎の壁面・廊下・室内等に目標を提示してしげきを与える。



校舎に提示された生活目標

(2) 心の交流を図るもの

①ふれあいの実施

学校保健委員会で親子の実りある会話が必要であることが話し合われ「ふれあいの日」が始められた。毎月第3日曜日、家族が全員で一つのことを行い、それを通して心のふれあいを深めようとするものである。内容についての規定はないが、翌日「ふれあいの日につき」を担任に提出することになっている。内容のユニークなものや参考になるものは、各家庭に紹介されたり、生活体験発表会で発表されている。



親子の結びつきを深めるふれあいの日

②テーマ給食

毎週金曜日の給食は学級独自の発想でテーマを決め、楽しいふんい気の中で行っている。

③親子学級会の実施

教育への関心を高め親子の心の交流を図る。

④お年寄りを招く日の特設

敬老の念を育て地域との結びつきを深める。

(3) 体力づくりを推進するもの

①天心ランドの設置

子どもたちの心をとらえるものは遊びの中にある。遊びを通して子どもは成長するものである。遊びながら体力づくりができる自作遊具施設として考えたのが天心ランドであり、活用方法を考えて遊具を一箇所に集め、関連的に活用できるよう配列に工夫を加えた。

設置の作業は、特殊な施設を除いてほとんど本校職員とPTAの共同作業によるものである。子どもたちは、この心のこもった施設でのびのびと体力づくりにはげんでおり、その成果は、昭和53年度愛知県体力優良校の受賞となって実を結んでいる。



職員・PTAの手で設置された天心ランド

②太陽の時間の運営

毎日10時15分から10時35分までの20分間を体力づくりの時間とし、太陽の時間と呼んでいる。

友達と技能を競い合ったり、集団で楽しんだりする中で自分の体力をふり返らせ、やる気をおこすように指導している。本年は、児童自らが企画し運営する曜日を設け、自主的に行っている。また、集団行動の訓練の場としても重要視している。

③親子体力づくりの会の実施

親子の結びつきを深め、家庭における体力づくりを啓蒙する。

④体力測定室の設置

自分の体位、体力を知り、向上に努める。

(4) 健康管理を図るもの

①目の体操

目への関心をもたせ、視力の低下を防止しようとする意識を育てるのがねらいである。



目に対する関心を高める目の体操

②はみがきの実施

むし歯を予防し、歯を大切にする気持ちを育てる。給食後に実施している。

③健康相談の実施

進んで相談を受け自己の健康管理に努める。

④健康観察板の取り付け

個々の健康状態をは握し、自覚させる。

⑤保健袋の作製

保健関係用品を衛生的に保管する。

⑥安全点検日の制定

危険箇所の早期発見に努め、事故を未然に防ぐ。

5. おわりに

11月3日の表彰式の後、中央審査の先生から、「ふれあいの日」などを中心とした心の健康の重視と、ユニークな教育活動、地域ぐるみの保健活動はすばらしい」といってほめて下さった。私たちは、努力が報いられたという喜びと同時に、自分たちのめざした方向が高く評価されたことに無上の喜びを感じた。

しかし、われわれの研究はまだ緒についたばかりで、これから始めるのだという感が強い。受賞を契機に真の健康教育をめざし、着実な歩みを続けたいと考えている。



健康教育の歩み

——“あたま”と“からだ”と“こころ”
の調和を求めて——

島根県安来市立宇賀荘小学校

校長 宮 部 晃

1. はじめに

本校は、「あたま」と「からだ」と「こころ」が調和的に発達し、豊かな社会性を身につけ、強靱な生活力を持ち、激動する現代社会の中にあっても、自分の能力を常に発揮できるような子どもの育成をめざす健康教育（即全人教育）の研究と実践を、家庭や地域と一体となって進めている。

2. 地域の概要

校区は、国道9号線より伯太川沿いに、上流3kmから7kmくらいの間に位置し、能義平野の東端を占めている純農村地帯で、学校は、そのほぼ中央にある。校区内には、古墳が点在し、多くの国宝を持つ天台宗の古刹清水寺や、国宝、重要文化財を持ち、つつじで名高い禅宗の霊場雲樹寺がある。産業面では、米の生産が主体であるが、葉たばこ栽培、酪農を行う農家も多い。しかし、近年近くの街に仕事に出る者が多くなった。地域住民は純朴で人情厚く、学校に対しても極めて協力的である。

3. 本校の概要

本校は、明治6年に創立(清井、柿谷小学校として)され100余年の歴史と伝統をもっている。児童数108名、学級数6学級、教員数9名(養護教諭は本年から配置)という小規模校である。

過去10年間の主なる事項をあげてみると右表の通りである。



中庭から見た校舎の一部

4. 本校教育の目標(次頁)

5. 実践活動の概要

(1) 体づくりの活動

①薄着とはだしの生活

学校生活において、活動を活発にすること、着替えによる時間のむだを省くこと、夏季は太陽を思いきり浴び、冬季は皮ふを鍛えることによって抵抗力を養うことなどを目的に、登校と同時に全員が体育の服装に着替え、はだしと薄着の生活を送っている。



休み時間
先生と一緒にボール遊び

年度	事 項
44	・校内テレビ放送施設ならびに校内放送設備を完備する。
45	・「思考力を高める学習指導法―読書指導―」の研究に対し学研教育賞を受ける。 ・島根県花いっぱいコンクールにおいて努力賞を受ける。
48	・簡易水泳プールを新設する。(10×25) ・全日本よい歯の学校表彰を受ける。 ・開校百周年記念式典を行う。
49	・全日本よい歯の学校表彰を受ける。 ・島根県健康優良学校(入選)として表彰を受ける。
50	・交通少年団を結成する。 ・全日本よい歯の学校表彰を受ける。 ・島根県健康優良学校(準県一)として表彰を受ける。 ・島根県健康優良児童(準県一)として表彰を受ける。(6年 仲田えいみ) ・学校安全図画作品優秀として文部大臣表彰を受ける。(1年 石倉和男) ・学校安全作文優秀として日本学校安全会理事長表彰を受ける。(3年 藤田麻理子)
51	・校庭拡張, 100mコースできる。 ・全日本よい歯の学校表彰を受ける。 ・交通安全優良校として県より感謝状を受ける。 ・島根県健康優良学校(県一)として表彰を受ける。 ・全日本健康優良学校(特選)として表彰を受ける。 ・島根県保健体育優良校として表彰を受ける。 ・島根県花いっぱいコンクールにおいて優良賞を受ける。 ・全日本健康優良学校受賞記念式を行う。屋体にどんちょうを設備する。 ・世界児童画展において文部大臣表彰を受ける。(3年 青山玲子) ・卒業記念として鑑賞池を設置する。
52	・PTA活動優秀につき県PTA連合会より表彰を受ける。 ・保健室を新設する。 ・全日本よい歯の学校表彰を受ける。 ・島根県交通安全優良校として感謝状を受ける。 ・島根県花いっぱいコンクールにおいて優秀賞を受ける。 ・島根県学校安全優良校(準県一)として表彰を受ける。 ・健康教育研究発表大会を開催する。
53	・屋外体育用具室を新設する。 ・島根県健康優良学校(県一)として表彰を受ける。 ・島根県健康優良児童(県一)として表彰を受ける。(6年 河合純也) ・日本一健康優良学校として表彰を受ける。 ・全国健康優良児童(特選)として表彰を受ける。(6年 河合純也) ・全国保健体育優良校として表彰を受ける。 ・島根県学校給食優良校として表彰を受ける。 ・島根県学校安全優良校(県一)として表彰を受ける。 ・島根県花いっぱいコンクールにおいて優秀賞を受ける。 ・全日本よい歯の学校表彰を受ける。

本校教育の目標

(1) 教育の目標

健康な身体と豊かな心情，優れた知性をもち，民主的な平和国家の建設に努力する日本人を育成する。

(2) 期待する児童像

自主性，創造性を培い，心身ともに健康で最後までやりぬく強い意志をもち，常に意識し行動に移すことのできる子どもを育てる。

具体的には，明るく，元気な子ども ……………健康
自分で考え，やりぬく子ども ……………自主
よろこんで働く子ども ……………勤労
研究，くふうする子ども ……………探究
仲良く，力を合わせる子ども ……………協力

(3) 経営方針

教師自らが豊かな人間性をもち，教育愛に徹して，ひたむきな研究心と実践力により

- ・健康的であり，はつらつとした生気のある学校
 - ・自主的，創造的学習が行われる学校
 - ・豊かな美しい，心情にみちた学校
 - ・調和と統一のとれた基礎教育を着実に推進する学校
 - ・師弟，保護者の相互信頼に結ばれた学校
- をめざす。

(4) 本年度の重点目標

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ① 自ら考え正しく判断する力を育てる。 | ② 健康でたくましいからだを育てる。 |
| ・自主的な学習態度の育成 | ・体育活動の充実 |
| ・表現力の育成 | ・保健，安全指導の徹底 |
| ・個性，能力に応じた指導の徹底 | ・給食指導の徹底 |
| ③ 豊かな心情を育てる。 | ④ 家庭，地域社会との提携を図る。 |
| ・生命尊重と協調の精神の育成 | ・学校保健委員会活動の推進 |
| ・美化活動の推進 | ・広報活動の推進 |
| ・音楽活動の充実 | |

(5) 教科・領域の指導の重点

教科，領域ごとに2～3の重点を設定

(6) 研究活動

① 研究主題

「心身ともに健康でたくましい児童の育成をめざす健康教育はどのようにしたらよいか。」

②校内小体育会の実施

毎月1回（2～3時間）児童会が主体となって企画・運営に当たっている。内容については季節も考慮し、春から秋には走を中心に、11月は女子も参加する相撲大会、冬季はなわとび大会などを行っている。



11月の校内相撲大会

③課外活動の推進

朝は、登校と同時に学年に応じた中距離走を行い、放課後は高学年を対象として、陸上競技や球技を計画的に実施している。

休み時間には、外で思いきり遊ぶように指導している。

④級別判定表の利用

校庭の固定施設をより多く利用させ、個々の能力を向上させるめやすとして、施設の近くに級別判定表を設けた。児童は1つの目標を持ち、上級をめざして努力している。



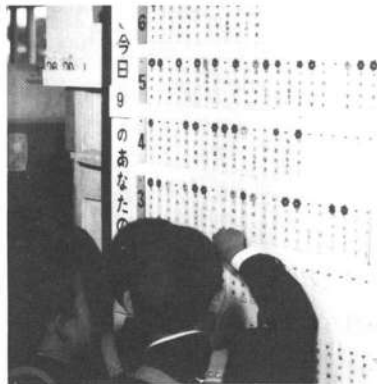
遠方（右）の四角い板が判定表

(2) 保健活動

保健的な良習慣を育成するために、保健指導を重視

している。内容については、学校保健計画に基づいて行いが学級指導を中心に進めるようにしている。

管理面として、児童自らが自分の健康は自分で注意できるようにと、昇降口正面に健康観察板を設置し、登校と同時に、自分の健康状態により、9色のおはじきを利用して、そこに表示するようにしている。学級においては、児童相互の観察、教師による観察を行い、状況は健康観察表に記入している。養護教諭は各学級を巡り、全校児童の健康状態を把握するようにしている。



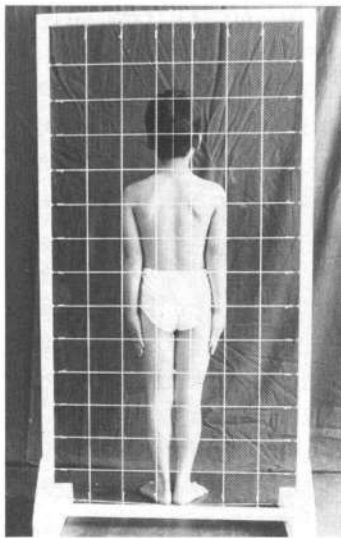
健康観察板に
おはじきをかける児童たち

疾病予防対策としては、食後の歯みがき（3.3.3方式）運動、清掃後のうがい、手洗いの励行など積極的に取り組んでいる。



給食後の歯みがき

脊柱側弯症対策についても、全校児童の姿勢写真や姿勢の実態調査、健康診断等の結果に基づいて検討し、姿勢の矯正、運動（特に筋力をつける）の励行、机、いすの適合、いりこを食べる運動（学校給食も含め）など、学校、家庭ぐるみの活動を進めている。



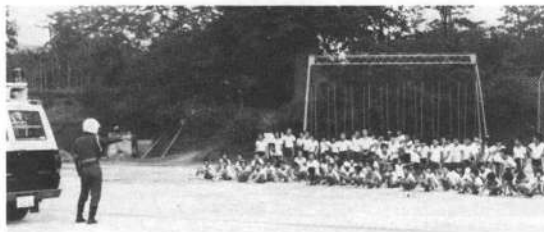
自作のついたて
(1.8m×1m)
に1辺10cmの正
方形になるよう
にゴムを張り後
方に立たせ、背
面側面の背骨の
位置、両肩の高
さ、左右のウエ
ストラインを見
る。

(3) 安全活動

学校内外の生活における安全について理解させ、児童が現在は勿論将来において安全な生活を営むために必要な能力(知識、技能、態度、習慣)を身につけさせるために、意図的、計画的、継続的な指導を学級指導を中心にして進めている。

管理面においても、日常及び定期的安全点検を実施し、事後措置についても早期に行うようにしている。

また、「自分達の安全は自分達の手で守る」ことをねがい、昭和50年に宇賀荘小学校交通少年団を結成し、学年に応じ月の努力目標を掲げ、安全確保に努めている。事業として、通学班長会、交通教室、自転車検定、交通安全ポスター・標語・作文の募集などを行っている。



交通教室 — おまわりさんの指導をうける —

(4) 学校給食

学校給食では、①集団活動を通しての好ましい人間関係の育成(楽しいふんいきづくり)、②好ましい生活態度の育成(習慣づくり)、③心身の健康の保持増進(健康づくり)をねらいとしている。方法としては、

児童の活動をより多く取りあげるように進めている。

— 給食委員会活動の事例 —

1 学期の目標と計画

①目標——楽しい給食をする。

②計画

◎学級でリクリエーションを決めたり、机の並べ方を変えたり、外で食べたりする。

◎学年訪問会食をする。

月2回ソフトめんの時(つごうによっては中止することもある。)各学級から2名ずつ10名出る。

◎2つの学年会食をする。

5月-1年と3年
6月-2年と4年 } する日は、2つの学年で相談
7月-5年と6年 } する。家庭科室です。

◎全校会食をする。

学期に1回する。1学期は5月ソフトめんの日にする。

◎主な仕事

・調べものをする。
・マスク調べ—毎週月曜日 } 1年は米田さん、
・給食カード調べ—月の末 } 2年は安戸さん、
その他は学級の委員で調べる。

◎給食カードを5月より作る。

みんなで考え—→高学年が印刷、配る。

◎調べものの結果の発表をする。

みんなで調べ—→高学年がまとめて発表

◎献立板の記入—→中学年

◎給食用具の点検、整頓—→中学年

◎給食ニュースをはる。—→購買当番の者

全校会食の計画

①目的—みんなで楽しく給食をする。

・給食のおばさん達に、みんなでお礼を言う。

②する日—5月24日(火)

12時10分から1時まで

③場所—講堂



④準備、片付けの仕方

・先日に配膳台運び ← 給食委員

・当日にごさしき

・食器などの運搬、配膳は各学級の当番がする。

・他の者は準備ができるまで教室で待ち、放送で知らせたら来る。

・レコードは放送委員、司会、挨拶は給食委員長、副委員長がする。

・片付けは準備した者です。

⑤リクリエーションは食事中はレコード鑑賞、食後はものまねをする。

⑥注意—おてふき、牛乳のふたを入れる袋を配膳台に配っておく。



中庭のいこいの広場での楽しい給食

(5) 業間活動

活動の時間は、毎日3校時と4校時の間の20分間をあてている。これは朝のすがすがしい時に落ちていて知的学習に取り組ませるため、内容も体力づくり的な活動に片寄らず調和のある活動をめざしている。具体的なねらいとしては、

- ①1日の学校生活に変化を与える
- ②体力や表現力や勤労意欲を育てる
- ③集団活動の中で連帯感を養う
- ④集団行動様式を身につける
- ⑤児童の自主的、自発的活動を取り入れ、全校児童の参加する楽しい時間とする

である。

1 週間の計画

月	一	全校集会、 時間走
火	一	音楽 (合唱、合奏)
水	一	ダンス
木	一	奉仕活動又は、 自由遊び
金	一	宇賀荘二人組 体操



宇賀荘二人組体操

(6) 精神衛生活動



学級園の手入れ

学校には精神的なうらおいがなければならないし、やさしい心を育てる場が必要である。

本校では、鶏、兎、インコ、十姉妹、文鳥等を各学年で飼育している。また、自分達の手で草花を栽培し、植物を育てる喜びを身をもって経験することと、年間を通じ緑と花に囲まれた学校をめざし、学校・学級花壇や一人一鉢運動を進めている。

また、校舎内の掲示は教育的な立場から考え、児童に役立つものであることは勿論であるが、児童の図画等の優秀作品も多く掲げるようにしている。更に、渡廊下、手洗い場には人工芝を敷き、水ぬれによるすべりを防止するとともに美観にも心がけている。

児童の清掃活動は、全校たて割り方式で行っている。少人数ではあるが横のつながりに片寄りがちな交友範囲も広くなり、高学年は下学年の指導の大切さを知るとともに、自覚と責任もいっそう芽ばえてきた。

(7) 学校行事

①はぜ釣り大会

秋季遠足と兼ねて、高学年は7km離れた中海に出かけ、はぜ釣り大会を行っている。

秋の陽を全身に浴びながら糸を垂らして過ごす一日は、児童の待ちどおしい行事の一つである。釣り上げた魚は、各自で持ち帰り、夕の食事に加えられる一家団らんの一つになっている。

②たこあげ大会



あがれ、あがれ 天まであがれ

冬休みを利用して作ったたこを持ちより、近くの田圃で寒さにめげず、時間のたつのも忘れて一生懸命あげるのは、楽しい行事の一つである。

低学年では、製作からあげ方まで父親の指導を受け、これが心のふれあいの場ともなっている。

作り方のアイデアやあがり方によって賞も与えている。

③ 写生大会

各学年で適当な場所を選び、弁当持ちで写生に出かける。作品はお互いで鑑賞し、その後は教室や廊下に展示している。優秀作品には賞を与えている。

真剣に
取り組む
写生会



(8) 研究活動

子どもなりに自分の課題を解決できる能力を培うため、自主研究を勧めている。研究成果の発表は、学級や学校として行うが、運営については、児童の活動として取り組むようにさせている。

童話、意見発表会や、読書感想文発表会も行事計画の中にあげ、より多くの児童がこれらの経験を得るように努めている。



O.H.P.を利用してグループの研究を発表

(9) PTAの活動

知的理解面は別として、本校教育のねらう「心身ともに健康な子どもづくり」は、学校のみでは達成されにくいので、家庭、地域ぐるみの協力を得なければならない。本校ではその核を学校保健委員会におき、具体的な活動はPTAが中心となって行っている。活動の事例を挙げてみると次の通りである。

○基本的な生活習慣を育てる。

- ・交通安全指導の強化。
- ・保健的な良習慣の育成。
- ・好ましい生活設計の設定。

○好ましい人間関係を育てる。

・地区親子会活動の推進。

○豊かな心とたくましい体を育てる。

- ・全校親子海水浴・親子大山登山（宿泊訓練も兼ねる）の実施。
- ・親子体育会の開催。
- ・いりこを食べる運動の推進。
- ・家庭親子花壇づくりの推進。

準備も
しっかりしておこう



大山の広場で
親子の紹介

6. おわりに

健康優良学校日本一の栄誉は、本校にとって誠に嬉しいことであるし、これが前進のための一つの契機であるとも考えている。

今後もすべての子どもが、頭、体、心の調和がとれ、豊かな社会性を身につけ、将来においてひとり立ちのできる人間の育成をめざし遅々たる歩みであっても一歩一歩確かなものにして行きたいと考えている。

昭和53年度の研究同人



校長 宮部 晃
教頭 山崎 武美
教諭 細田 栄延
" 池田 稔
(保健主事)
" 吉川 和子
" 永田 惇子
" 仁田 善子
" 山本 節子
養教 前 佐代子

健康優良児童中央審査に参加して



父 松 本 隆 資

昭和53年11月1日午後4時30分、順天堂大学名誉教授東俊郎審査委員長から「昭和53年度健康優良児童日本一は茨城県水海道市立三妻小学校6年生松本勝男君」と発表されたとき、私は正直言って信じられず驚かなかった。でもそれが真実と分かった時は自然に涙があふれて直立不動の姿勢で立っていた。子どもの方を見ようとしても涙で見えない。ただもう嬉しくてどうしようもなかった。

宿舎で早速「日本一」の祝賀会をして頂き祝福されたが、同じ気持ちで上京したみなさんに申し訳なく喜びに浸れなかった。何とも複雑な気持ちであった。

私は子ども達に対して家庭教育としては特別なことはしていない。放任主義のようであるが過保護にはしていない。ただ褒めることはしても叱ったことはない。それよりも早いテンポで成長してくる子ども達に負けないように自分を磨くことで精一杯である。

こんどの健康優良児童のことで自主的にトレーニングをしたり研究している子どもの様子をみてあまり口出しをしなかった。子どもの能力は成績や記録である程度までは評価ができるため、県大会の時は手に汗をにぎるほど緊張の連続であった。だから運よく県代表として選ばれたときは非常に嬉しかった。帰宅する車の中でテストや審査のことを話し合い、反省も含めて中央審査にそなえて努力することを約束した。

子どもは歴史の本が好きでよく読んでいる。豊臣秀吉、織田信長、徳川家康などである。運動で懸垂が少し弱いので、徳川家康全26巻を懸垂1回増えるごとに2冊という特約までさせられた。しかし、学校で何回練習しても8回止まりであるという、記録というものはそうたやすくのびるものではないということを知った。

でも挑戦した。昼間は学校の授業で練習ができない。放課後は日没までサッカーの練習で抜けることもできない、結局毎晩8時から10時頃まで行ったのである。運動場は真暗なので私は自動車2台で照明を作った。巻尺を用意したり、後片づけをしたり、子どもになる

べく精神的な負担をかけないように黙って手伝った。しばらくしてから都道府県76人の中から特選優良児として選ばれたとの知らせがあり、その朗報にみんなで喜び合った。その間に色々の情報が入ってきて中央大会の壁は非常に厚いことを知った。本当は知らない方が希望がもてて良かったのかも知れないと思った。でも知ってしまった以上はかえって無欲になれたのも事実である。

10月30日午後4時東京代々木の宿舎に着いた。朝日新聞東京本社の方々が日程などについて説明された。その間特選優良児に選ばれた子ども達は、最後まで身動き一つせず堂々とした姿勢でお話を聞いていた。その後姿を見ていた私は、初めて見るよその子ども達に驚嘆しながらも素晴らしいと思った。4泊5日の日程は長いようで短かった。田舎や親戚から電話があると思って私はなるべく外出しないで待機していた。今年でこの制度は終わるというニュースを耳にしたので、私達は折角全国からみなさんが集まったのだからこの機会を無駄にしないようにと、31日の夜「健修会」という名称で親睦を目的とした会を結成した。さらに地域の学校のこと、PTA、子ども会、健康管理などについて夜遅くまで話し合いをした。内容はとても有意義であった。

11月3日文化の日、私などは生涯通じてお目にかかることのできない天皇皇后両陛下に直接お目にかかることができ、ありがたいお祝いの言葉と励ましのお言葉を頂きました。厳粛な気持ちと緊張の連続で感無量であった。

晴れの表彰式には家族全員で出席した。子どもの態度が案外と落ちついていたので安心した。会場ではご立派な方々や、健康優良児の先輩のみなさんが祝福してくれた。

楽しい祝賀パーティ、美味しい料理が次から次へと運ばれてくる。世話係の指導で歌の合唱となると雰囲気

気が最高に達した。私は夢心地でいた。やがて総ての日程が終わり、幕を閉じようとしている。

「健修会」を代表して、「真に健康優良と呼ぶにふさわしい学校・児童を顕彰・報道することによって、全国の子ども達や先生方、両親や地域社会の人々に健康や教育についての認識を深めてもらい、さらに国民全体の健康への関心が高まれば……」という朝日新聞社の願いを何時も忘れることのないように再確認して、今後とも明るく健康で楽しい毎日を過ごしましょう。そしてお互いに元気な姿で3年後に再び東京でお逢いし

ましようと呼んで別れた。

こんどの名誉ある受賞はみなさんのご指導とご声援の賜であると感激の気持ちで一杯である。東京で結ばれた友情を大切にしたいという子ども達の願いが手紙などによって交換され、各地方のニュースや自分のことなどを書いて往復していることは温い気持ちの現れで嬉しく思っている。

最後に人生最高の栄誉を賜り感激を味うことのできたことを胸の奥深くとどめ、みなさんのご期待に背くことのないように一生懸命努力するつもりである。



日本一になって

茨城県水海道市立三妻小学校

6年 松本勝男

健康優良児。このことを初めて知ったのは、五年生の時でした。保健の先生が「松本君は健康優良児になれるよ」と言ったのを覚えています。その日から先生は、ぼくと会うたびに「虫歯は、作らないようにしなさい」とか「病気なんか、しないように」などと、いろいろ言ってくれました。でもぼくは、先生がせっかく言ってくれたことをいつも、うわの空で聞いていました。その時は「どうせ、ぼくなんか」と心の中で思っていたからです。

県で審査があるというので、書類が出された時もぼくは、無関心でした。でも、県から「審査しますので来て下さい」という通知がきた時は、ほんとうにびっくりしました。それから、運動能力のテストや面接の練習をしました。運動能力で一番弱かったのは、懸垂でした。当時のぼくは、3～4回ぐらいしかできませんでした。懸垂の練習内容は、ひまがあれば、うで立てふせをしたり、ななめ懸垂をしたりしました。ぼく

にとっては、苦しい練習でした。県の審査の時には、7回と、ぼくにとっては、良い成績でした。

県の発表の時は、今までで一番きんちょうしました。むねはドキドキして、足はガタガタでした。でも、審査委員長から「県代表は、松本君です」ということばが出た時は、喜びとうれしきで今にも「やったー」とさげびたいところでした。

しばらくして、今度は、特選の知らせがありました。その時は、喜ぶよりも、なぜかむねがドキドキしてしまいました。

10月30日に上京する時、友達が励ましてくれました。その励ましがなかったら、ぼくは日本一になれなかったかもしれません。その内容はただ「日本一になってこい」と言うのではなくて「日本一にならなくてもよいから力いっぱいやればいい」ということでした。

東京の宿舎に着いて、男子9人の特選児を見た時、心の中で「さすが日本は広い」と思いました。でも、

ぼくはぼくなりには覚悟はできていたので、そうおどろきはしませんでした。みんなとすぐ仲よしになれたので、不安などは、夜には消えていました。

2日間にわたって知能テスト、運動能力テスト、面接など、いろいろな審査がありました。その中で一番良かったのは、運動能力テストでした。懸垂、走り幅とび、ボール投げ、どれも自分のベスト記録を上回っていました。普通だったら、きんちょうしてあまりいい記録はでないところですが、ぼくは、その時、上京する前に友達の言った励ましどおりにやろうと思ったのが、体の力みをぬいたのだと思います。

そして、11月1日にぼくの日本一が決定しました。発表された時は、ポーッととなったようで、友達に肩をたたかれて、我にもどったような感じがしました。宿

舎へ帰ってから、特選児童のみなさんで、祝賀会を開いてくれました。みんなが「おめでとう」と言ってくれてうれしかったけど、それよりも、みんなに、「悪いなあ」という気持ちのほうが、強く感じました。

東京へ上京して、いろいろ経験してきましたが、日本一になったよりも、全国の人たちと友達になれたことの方が、うれしいような気がします。これから、東京で生まれた友情を大事にして、日本一という大きな心の負担をのりこえて、みなさんの期待に背かないようにがんばっていきたいと思います。

最後に、父母をはじめ、いろいろ協力してくださったみなさんに、心からお礼を言います。本当にありがとうございました。



「健康優良児日本一」の栄誉に浴して

鹿児島県揖宿郡山川町立利永小学校

校長 下 野 一 二

「美樹が日本一に決まりました」という東京からのお母さんの電話がはいったのは、11月1日の午後5時すぎだった。何とか知らせがあるはずだと、まだほとんど職員室にいた先生方と思わず「万歳、やった！」と叫んだ。それから、朝日新聞社鹿児島支局から、正式の健康優良児日本一の電話をいただき、先生方からおめでとうを言われ、自分が日本一になったような感激の一瞬だった。

さっそく練習をしていた剣道スポーツ少年団員に知らせ、また校区内の有線放送で流し、今までにない快挙を喜び合った。

思えば、10月27日美樹さんを励ます会の時、「全国10人の中に選ばただけでも栄誉だ。東京では、自分の持っている力を十分出し切ってください。あなたならきっとできる」と、はなむけのことばをのべたのだった。それに応えてくれたのか、堂々と日本一の栄誉を勝ち取ってくれた。

2日は、業間体育時に全校児童で東京の美樹さんに届けとばかり大きな拍手で喜び合い、3日は、町民体

育大会の席で、町教育長さんから「利永小学校6年生の東畑美樹さんが、健康優良児日本一になりました」と紹介されると、集まった人たちから盛大な拍手がわき起こった。

4日は、鹿児島空港まで、担任の木原先生、PTA会長さん等と出迎えに行き、校区にはいると「おめでとう健康優良児日本一、東畑美樹さん」の横断幕が道路・校門にはためき、花火がこだまし、道路には多数の校区民が祝いに集まり、また、来賓を含め200名以上の参加者による歓迎祝賀会が催され、祝賀一色に包まれた。

5日は、MBCラジオ録音、

7日は、教育事務所や県教育長・保健体育課、新聞社等にあいさつまわり、

9日は、MBCこちら報道の録画（学校で）放映と、忙しい中にも祝福に明けくれた日々であった。

昨年は県内の牧園小学校の丸野多恵子さんが全国一の栄誉にかがやいている。全国推せんの書類を書く時、

昨年全国一になった丸野さんのデーターと比べた時ほとんど変わらない。運動能力・性格ともすばらしいものを持っているので、ひょっとしたら連続日本一も夢ではないと担任と話していた。前夜、本人からわざわざ電話があり「先生力いっぱいやれました。ソフトボール投げ・走り幅とびとも一位、けん垂も三位以内でした」と聞いた時、ますますその感を深くした。今年この学校に赴任しただけでこんな荣誉に会い、ほんとうにうれしい。

美樹さんはスポーツ万能選手。5年の時は県陸上競技会百メートル競走で県新記録、走り幅とびで県二位であった。また、剣道スポーツ少年団に4年生から入団し、木原先生の指導でめきめき上達し、副将格である。学校では児童会長の役職につき、よく仲間をまとめ、将来の希望は小学校の先生になりたいと夢をえがいている。

鹿児島県の学童の体位体力は、毎年全国の最下位にある。この中で男女とも特選児それぞれ10名の中に選ばれ、昨年に引き続き女子健康優良児日本一になったことは、今までにないことである。県体育保健課にあいさつに行った時、「まさか日本一が続けてでると思わなかった。これで鹿児島の子もたちの大きな励みになるでしょう。ほんとうにおめでとう」と祝詞をいただいた。美樹さんの快挙は、本校児童だけでなく地区・県の児童たちにも大きな自信となることであろう。

山川町は、薩摩半島の最南端にあり、かつおの町、園芸の町として知られ、観光地長崎鼻には人・車の絶えることなく、連日にぎわっている。

利永校区は、山川町の西端に位置し、大部分は農業専業で、耕地は畑だけで、近年国の補助で耕地整理が行われ、農業機械の導入や生産集荷法も進んで、たばこ・そ菜園芸・肥育牛生産等が急速に進展してきた。また、山林面積も広く、空氣がきれいで、美しい自然に恵まれている。

保護者の職業の主なものは、農業39%・船員19%・会社員18%その他で、教育熱も高まり、参観日出席率は常に85%をくだらないほどである。

本校は校区の西端にあり、創立101年を迎えた古い伝統のある学校である。全校児童数116名に対して広すぎるぐらいの運動場(7835㎡)をもち、運動場の一角から薩摩富士と呼ばれる開聞岳が望まれる。

本校児童の長所としては、

- (ア) 明朗ですなおである。
- (イ) のびのびしていて友だちとの仲がよい。
- (ウ) 運動がすきで進んでからだを鍛えている。

という点が見られる。

本校教育重点目標の中で

児童像(こんな子どもにしたい)

- (1) 明るく元気な子ども
- (2) きまりを守り礼儀正しい子ども
- (3) よく考え実行する子ども
- (4) ねばり強くがんばる子ども
- (5) 仲よく助け合い思いやりのある子ども

を目標として努力してきた。

本校の体位は、3年女子及び5・6年男子を除くと県・全国平均を上回っている。(但し1学級の人数がそれぞれ10名内外であるので比較しにくい)

スポーツテストの結果、運動能力テストでは個人の力の開きが少なく、集団内の力が接近している。

体力診断テストでは、6年女子を除いて落ち込みがはげしく特に5年男子に劣りが著しい。

全体的に考察してみると、本校の児童の体力は、男子では柔軟性・持久力が劣り、上肢の筋力が非常に落ち込んでいる。女子においては5年生に持久力・上肢の筋力が不足している。6年女子は、運動能力・体力ともほとんど県・全国平均を上回っている。劣る分野については、平常の体育・業間体育で、教師が意識して指導するようにしている。

運動能力における県平均との差 (S.53.12現在)

種 目	5 年				6 年			
	男 子		女 子		男 子		女 子	
	県	本校	県	本校	県	本校	県	本校
50 m 走	9.2	8.8	9.5	8.9	8.9	[△] 9.0	9.1	8.9
走り幅とび	302.5	304.8	277.5	292.3	322.5	331.8	297.5	308.5
ソフト ボール投げ	30.1	33.0	17.4	21.2	34.2	37.5	20.2	23.5
けんすい	35.2	39.0	29.0	33.5	37.5	[△] 29.3	29.1	[△] 26.7
ジグザグ ドリブル	20.4	19.0	21.8	20.3	18.5	18.0	19.6	18.8
連続 さか上がり	4.0	[△] 2.7	3.9	5.2	4.5	4.5	4.1	5.7

△ 県平均より劣る

体力診断テストにおける県平均との差

種目	学 年		5 年		6 年	
	性別	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子
反復横とび	県	本校	県	本校	県	本校
反復横とび	36.0	41.5	34.9	39.3	39.4	49.8
垂 直 と び	33.1	38.0	31.4	35.5	36.5	41.0
背 筋 力	56.5	△2.5	46.5		65.9	54.6
握 力	17.6	△17.5	16.5	17.0	20.5	21.0
踏 台 昇 降 (指 数)	68.8	△60.5	64.9	53.3	69.1	△67.7
伏 臥 上 体 し	44.2	△41.5	45.8	52.3	47.8	△46.3
立位体前屈	7.9	△7.0	10.0	12.3	9.0	9.8

△ 県平均より劣る

児童の体力向上については特別な事ではないが、

(ア) 業間体育の実施

毎日2校時終了後わずか10分ではあるが、金曜日を除いて、各学年毎に種目を決めて体力向上の一環として実施している。金曜日は全体訓練とラジオ体操を主にしている。雨天は教室でラジオ体操は欠けることがない。

(イ) むし歯治療と歯みがき指導

どこも同じ傾向であるが本校もむし歯が非常に多い。それに歯科医院までは遠くて交通の不便を感じていたが、歯科医の肥後先生の特別な御厚意と養護の若林先生の熱意により、むし歯治療100%にあと一歩という段階に至った。また歯みがきも習慣化させる意味で全校で取り組み、給食後の歯みがきを励行している。

(ウ) スポーツ少年団の練習

小人数と指導者の関係で剣道だけである。練習は毎日であるが、時には夜8時近くまでしないを振る。健康優良児になったのはスポーツ少年団での鍛錬も影響しているのではないかとも思う。特に現在担任している木原先生は、剣道の指導者でもあり、体力・気力づくりに努力された結果がすばらしい栄誉につながったものと思い、厚く感謝の意を表したい。

日本一に決まった時付き添っていた父親は、「びっくりして目の前が真っ暗になってしもうて……」という。また答辞の中で「わたしはカギッ子だった」のくだりでは、すまないという気持ちで男泣きに泣いたという。

父親は船員で一年の半分以上は海の上であり、母親

も勤め関係でいつも学校へカギを持っていく生活だった。

「何も特別なことはしなかった。ただ健康で人に親しまれる子に……」が、両親の願いだった。まったく自然の中に、父母の願いと本人の素質、それに担任の指導でいただいた「日本一」は、両親にとって最高の感激であったと思う。

美樹さん、日本一の栄誉に酔うことなく、また、心の負担とせず、日頃の明朗さを失わず、今後ますます心身を鍛え立派な社会人に成長してください。

美樹さんを受け持って



担任 木 原 南

「美樹さん。健康優良児日本一おめでとう」。各県より選ばれた中から、更に厳選された全国十人の代表の粒よりの中での日本一の栄誉を自分の掌中にした喜びは、何ものにもかえ難い「人生の宝」と言うべきでしょう。本当におめでとう。

私と美樹さんとの出会いは、美樹さんが、4年生の時でした。「すばらしい運動の能力を秘めた子だ」と、当時、学校で早朝マラソンを取り入れた始めの頃、走る姿を目にした時でした。筋肉質の軽やかな走りを目にした時の事を、今でも、はっきりと覚えています。「この子をきたえてみたいものだ」そう思ったことは、言うまでもないことです。剣道スポーツ少年団を指導していた私は、本人を何度となく、剣道の道にすすめ

ました。その時以来なのです。

やりはじめたら、いっしょうけんめいの彼女でした。たちまちのうちに並いる男子を抜いての技の上達は、目ざましいものがありました。4年生の1年間は、基本をみっちり練習したせいか、5年生からは、団でも5指の中に入り、先鋒を勤める程に成長しました。県大会をはじめ、各種大会でも男子選手を相手に、連戦連勝を続ける活やくで、郡大会優勝や県大会上位進出、水戸での全国大会出場等、美樹さんの活やくが、その土台となってきた事も事実なのです。今後とも、精神と技の向上を柱に頑張りたいと願っています。

5年生の時から担任している私ですが、何と言っても、美樹さんのすばらしいところは、苦しさや、つらい事に負けずに立ち向かっていく、物おじしない性格にあると思います。それと共に、大きな抱擁力のある明るい性格にあると思います。学習にも、運動にも、遊びの中でも、伸び伸びと参加し、級友とのおしゃべりでも、くったくなく語り合い、それとなく級友をリードしていているという姿は、常に、あちこちで見られます。そんな美樹さんですから、5年の時から、児童会の副会長、6年では、児童会長を全員から推され、大役をこなしている現在です。児童集会等でも、主体的に立案し、楽しい遊びを取り入れて楽しい集会をつくりあげています。

一方、運動の面でも、5年生の時、陸上記録大会で、100メートルで14秒2の県新記録を出し、優勝。走り高とびでも、県で2位の好記録を出しました。6年生でも、種目制限のため、100メートル1種目しか県大会に出場できませんでしたが、100メートル県3位に見事に入賞してくれました。又、チームのまとめ役としても、力を発揮し、学校の代表選手としての誇りを自覚し、冷静な行動と、驕ることのない態度は立派であると言わなければなりません。

苦しく、はげしい剣道や、運動に耐えぬくその力は、どんな条件でも、本番になると、自分の力を出しきる底力は、根性と精神の向上のあらわれであると思います。

学習面でも、思考力・理解力共にすばらしい能力を持っています。近ごろは、主体的に学習に取り組む姿勢ができてきていることは、とても良いことです。学習面でもトップをしめる美樹さんですが、えらぶった所もなく、友達をたて、自分を磨く姿は、共に励まし合い、協力して学習するという理想的な学習態度であると思います。

そんな美樹さんですので、県の審査会にも自信を持

って、美樹さんと共に出ました。桜島の灰の降る中で審査でしたが、よく期待に応えてくれたと思います。全国の審査会でも、必ず、特選児に選ばれると担任として朗報を心の中で待ち続けました。今か今かと待つ心のいらだちを押さえるのに、自分ながらはずかしくなった事でした。

11月1日は、授業が終わると、学級の全員、4時半ごろまで1人も帰らず朗報がとびこんでくるのを待ち続けました。電話がくるたびに、「ワーッ」と声があがるのです。もう、学級の全員は、日本一を確信しているかのようです。事実、担任の私でさえ、日本一を確信していました。前の日の電話で、運動能力の好結果がわかっていましたので、クラス全員は、「面接なら、絶対に他の特選児の方にひけはとらないだろう」と皆で話し合っていたのです。朗報が入ったのは、待ちきれずに下校して30分ぐらいたった頃でした。早速、剣道スポーツ少年団の団員に知らせ、校区内の放送で知らせたのでした。

日本一の栄誉は、本人の秀れた素質と、ふだんのゆめぬ努力のおかげであると思います。それ以上に、すくすくと明るく素直な性質をはぐくみ、愛情をもって育ててくれた御両親の養育のたまものであると確信します。それと共に、学校生活では、多くの先生方の御指導、共に励まし助け合ってきた多くの友達の力があつた事を忘れてはならないと思います。

今後は、この栄誉に臆することなく、今までの自分を更に伸ばすよう努力する気持ちを持って頑張ることだと思います。そして、変わらない養育を御両親に、よりよい御指導を多くの方々に望むと同時に、美樹さんが、健やかに成長される事を望み、今後も、あたたかく見守ってやりたいと思います。



健康優良児授賞式に参加して

父 東 畑 久 美

私の一生の中で、今年ほど最良で、幸運な年はなかっただろうと思います。

私の職業は、船員ですが、一年のうち、8か月から10か月くらいは、海上生活を送っています。ちょうど県の健康優良児の審査が行われているころは、ベルシャ湾へ向かって航海中だったものですから、何も知らず、10月7日、ベルシャから徳山港に入港した時、妻から知らされ、びっくりしたものです。

それまでは、健康優良児という言葉すら知らなかった私。子どもたちに、はずかしいくらいです。10月8日、休暇のため下船し帰省すると、担任の本原先生から、全国の審査会に書類を提出してあると聞かされましたが、特選児童に選ばれるとは思ってもみませんでしたので、朝日新聞社から入賞通知があった時は、まちがいでないのかと、信じられませんでした。

10月27日、PTAの方々や、学校の先生方、また、たくさんの方々より祝福され、30日朝、空路、東京へと向かいました。

宿舎の東京青年文化会館に着き、打ち合わせなどを済ませ、部屋に落ちつきましたが、他県の子どもさん達の立派に成長された姿を見て、自分の子どもに対し、すっかり自信をなくしてしまいました。

翌、31日と11月1日に、各テストや面接等が行われ、午後4時過ぎ、結果発表があり、男子に続いて女子日本一に私の子どもが呼ばれた時は、感激のあまり目の前がまっくらになりました。その後、新聞社の方々の、インタビューを受け、宿舎に帰り、さっそく、学校の先生方や田舎で結果を待っている方々に知らせました。

11月3日、「文化の日」東京の空も、この良き日を祝うかのように澄みきっていました。新聞社の朝日講堂で、リハーサルを行ったあと、9時から授賞式が行われ、各県の優良校の表彰があり、続いて、健康優良児日本一の表彰がありました。男子日本一、松本勝男君の答辞のあと、美樹が答辞を読みましたが、美樹が「わたしはカギッ子だった」と読みあげると、私は、

娘達に対し、今まで父親らしい事を一度もしてやれなかったもので、急に胸がいっぱいになり、涙が出て、男泣きに泣きました。また、この日は、天皇・皇后両陛下に拝謁の光榮に浴し、人生最高の日でした。これも、子どもたちのおかげと感謝しています。

帰省してからも、学校の先生方や地区民の方々から祝福され、娘も非常に感激していました。

今後は、子どもたちに多くは望みませんが、日本一になった事を鼻高くもたず、みんなから慕われ、愛される良い子に育ってくれる事を希望しています。

「日本一健康優良児」

に選ばれて

東 畑 美 樹

11月2日。私たちは全部の審査を終えて、あとは日本一の発表を待つばかりとなりました。シーンとしばらくかえる会場で、わたしは、「もし、日本一になれな

くても、せいっぱいやったから、これでいいんだ」と、そんなことばかり考えていました。

「女子日本一健康優良児に、鹿児島県利永小学校、東畑美樹さん」と呼ばれたとき、わたしは、あいた口がふさがらないほど、しばらく、ぼんやりと立っていました。他の女子の人達から、「やっぱり、カップだったね」といわれ、「ええっ、うそでしょう」と、うしろの父をふり返りました。父は、「よかったね」と笑いかけているように見えました。

わたしが、日本一になれたのは、たくさんの人達の、いろいろな努力のおかげだと思います。県の審査の時、担任の木原先生は、灰の降る中に、わたしをはげましながら、いろいろアドバイスをしてくださいました。「ぜったい美樹が県一位だよ」と何度も勇気づけてくださいました。わたしは、先生のためにも、せいっぱいがんばろうと、堂々と審査にいでました。その結果、健康優良児県一位になれたのです。わたしは、それだけでも満足でしたから、特選健康優良児の10人の中に選ばれるなんて夢にも思いませんでした。

東京で審査を受けることが決まり、わたしは、いろいろな運動を練習しました。その時も木原先生や友達がいっしょにやって、はげましてくれました。上京する時は、PTAの方々が壮行会を開いてくださいました。それに、上京の時は、早朝5時という時間にもかかわらず、たくさんの人達が見送りに来てくださいました。わたしは、感謝の気持ちでいっぱいでした。

東京の宿舎に着くまでのわたしの心は、「どんな人達がくるのかな」「その人たちがうまくやっていけるかな」という不安でいっぱいでした。わたしが宿舎に着いた時は、まだ1人か、2人いるほどでしたが、10分、15分と時間がたつと、次々にわたしよりずっと大きい人たちが入ってきました。わたしの不安は、前より、いっそう、ひどくなってきました。しかし、私たちの世話をしてくれることになった大学生のお姉さんのキリンさん（金塚太美子さん）に連れられて部屋に入る時は、もう、すっかり仲良くなっていました。

11月1日の最初のテストは、知能テストと体力テストでした。わたしが東京にくることで一番心配だったのは、知能テストのことでしたが、この時は、わりとよくできました。体力テストでは、ソフトボールが38メートル。けんすいが35秒。走り幅とびが4メートル28センチメートルという、まあまあのできでした。

それからもう一つ心配だったのが、面接のことでした。わたしは、人前に出ると、声が小さくなり、はっ

きりと答えることができません。母も、こればかりは、心配していたらしく、面接の前日、「明日は、大きな声ではっきりと答えなさいよ」と何度も何度も注意しました。わたしは審査室に入る前、手のひらに「人」という字を書いて、なるべくあがらないように、おまじないをかけました。そのおまじないがきいたのか、母がしつこく言ったのが良かったのか、面接では、はっきり大きな声で答えることができました。

すべての審査が終わり、わたしの胸の中には、ポカーンと穴があいたように気がぬけてきました。しばらく、控室で審査の結果を待っていましたが、みんな落ちつかない様子でした。わたしも、心の中では、そろそろわしていましたが、なんとかそれをかくし、気をまぎらわそうと、みんなと話をしていました。

何分ぐらいたってからでしょうか。審査の結果が出たということで、わたしたちは、審査委員や父兄の方々が集まっている部屋へ移り、そこで、日本一の発表を聞きました。

他の特選健康優良児の人達だって、きっと日本一になりたくてたまらなかったでしょう。とても、くやしかったと思います。それなのに、みんな、心から「カップ！おめでとう」そう言ってくれました。

宿舎に帰り、わたしは、みんなと約束をしました。「みんなの中から選ばれたのだから、日本一にはじないように、これからがんばっていく。……」と。

その約束を、みんなのあたたかい思いやりをこれからもずっと忘れずに、勉強、スポーツにはげんでいきたいと思います。そして、しょうがい、きっと忘れることのない、東京で生まれた友情をこれからも大切にしていこうと思います。

あとがき

朝日新聞社が、健康教育に深い関心を持って、健康優良学校・児童の表彰を企画され、わが社もまた、児童の健康増進運動の一環として「健康教育」を刊行し、第1号（S.31.12.5）から、その記事を集めてきました。

この間、校長先生はじめ諸先生方、優良児童とご両親様方の玉稿をもって紙面を飾ることができましたことを改めて御礼申し上げます。

来年度からは、小・中・大規模の学校表彰だけに変更されるとのことで、松本君、東畑さんが、意義深い健康優良児童表彰最後の幕引き役を果たされたことになりました。

ご両人の作文に述べられた謙虚な決意が、美しい実を結ぶであろうことを信じ、重ねてお祝い申し上げます。

（係）

昭和53年度健康優良学校・児童名簿

健康優良学校		健康優良児童	
十二 学 級 以 上	日本一 愛知県豊川市立天王小学校 特選 新潟県燕市立小池小学校 奈良県吉野郡吉野町立吉野小学校 千葉県銚子市立飯沼小学校 香川県香川郡香南町立香南小学校 都道府県代表校代表 東京都千代田区立永田町小学校	男	日本一 松本勝男 茨城県水海道市立三妻小学校 特選 山内達也 青森県三戸郡南部町立相内小学校 筒井裕一 岩手県二戸市立石切所小学校 大橋学 新潟県柏崎市立半田小学校 福岡正章 東京都文京区立汐見小学校 萩原好一 山梨県甲府市立貢川小学校 片岡史雄 鳥取県境港市立外江小学校 河合純也 島根県安来市立宇賀荘小学校 広田恭司 山口県萩市立越ヶ浜小学校 岩城靖一郎 鹿児島県大島郡笠利町立赤木名小学校
	日本一 島根県安来市立宇賀荘小学校 特選 富山県小矢部市立水島小学校 山形県酒田市立南遊佐小学校 秋田県北秋田郡鷹巣町立西小学校 岩手県二戸市立上斗米小学校 都道府県代表校代表 岡山県和气郡佐伯町立佐伯小学校	女	日本一 東畑美樹 鹿児島県揖宿郡山川町立利永小学校 特選 谷津清子 栃木県下都賀郡岩舟町立小野寺北小学校 山根直美 富山県富山市立呉羽小学校 石部陽子 静岡県浜松市立泉小学校 丸山三永子 愛知県北設楽郡東栄町立粟代小学校 町中宏美 三重県阿山郡鳥ヶ原村立鳥ヶ原小学校 池りか 高知県南国市立大湊小学校 加藤弓子 大分県佐伯市立佐伯東小学校 山口奈都子 長崎県佐世保市立潮見小学校 山城春美 沖縄県宜野湾市立普天間小学校

健康教育第七十七号

昭和五十四年四月一日発行

編
行
人
集

清
水
常
一

発
行
所

河合製薬株式会社学術部

東京都中野区新井二丁目八
電話東京三六五三二二（代）

健康づくりに！ カワイのビタミン剤

カワイ肝油ドロップ

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
ビタミンD₂ 200国際単位

カワイ肝油ドロップC22

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
ビタミンD₂ 200国際単位
ビタミンC 20mg

カワイカンエドロップM

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
ビタミンD₂ 200国際単位
リン酸水素カルシウム 65mg

アドロップC

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
ビタミンD₂ 200国際単位
ビタミンC 30mg

給食
強化剤

アドリッチ

1g中 { ビタミンA 50,000国際単位
ビタミンD₂ 5,000国際単位

カワイ肝油ドロップC20

1粒中 { ビタミンA 1,000国際単位
ビタミンD₂ 100国際単位
ビタミンC 20mg



河合製薬株式会社
東京都中野区新井2丁目51-8